

平成22年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

事故概要：

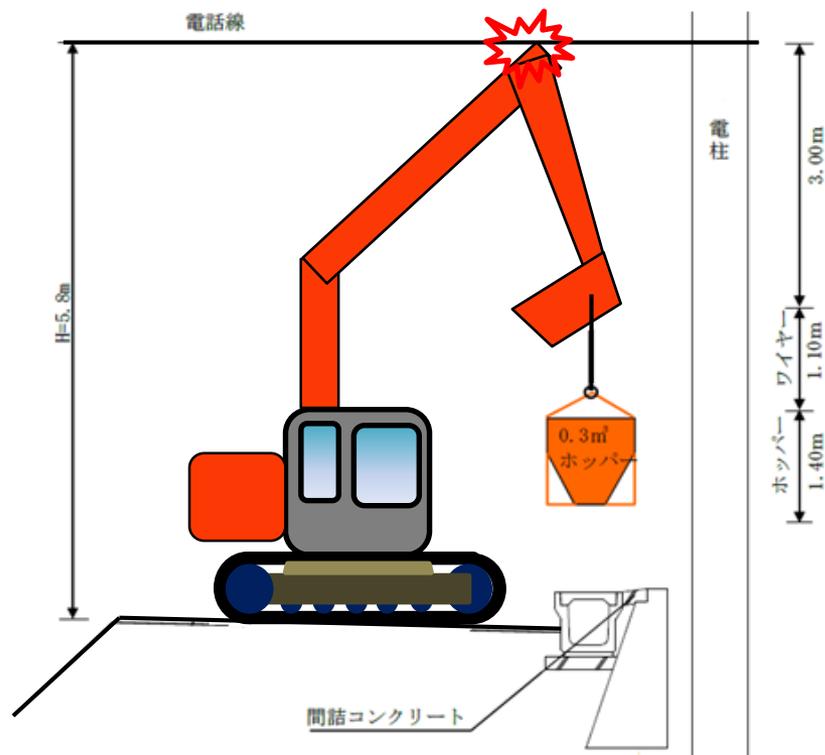
排水工の間詰めコンクリートを施工中、バックホウにて打設ホッパーを吊り上げ移動したところ電柱から民家へ道路横断していた引き込み線に接触し破損させた。

事故原因：

防護管や監視員など安全対策を実施していなかった

改善対策：

安全対策の徹底



分類：コンクリート打設工、BH移動

被害状況：民家1軒電話5時間不通

平成26年度に建設工事で発生した事件事例（建設機械による事故）

事故概要:

生コン車から生コンをホッパーに入れ、バックホウが後退し、打設位置まで移動していたところ、後部にいた交通誘導員と接触し負傷させた

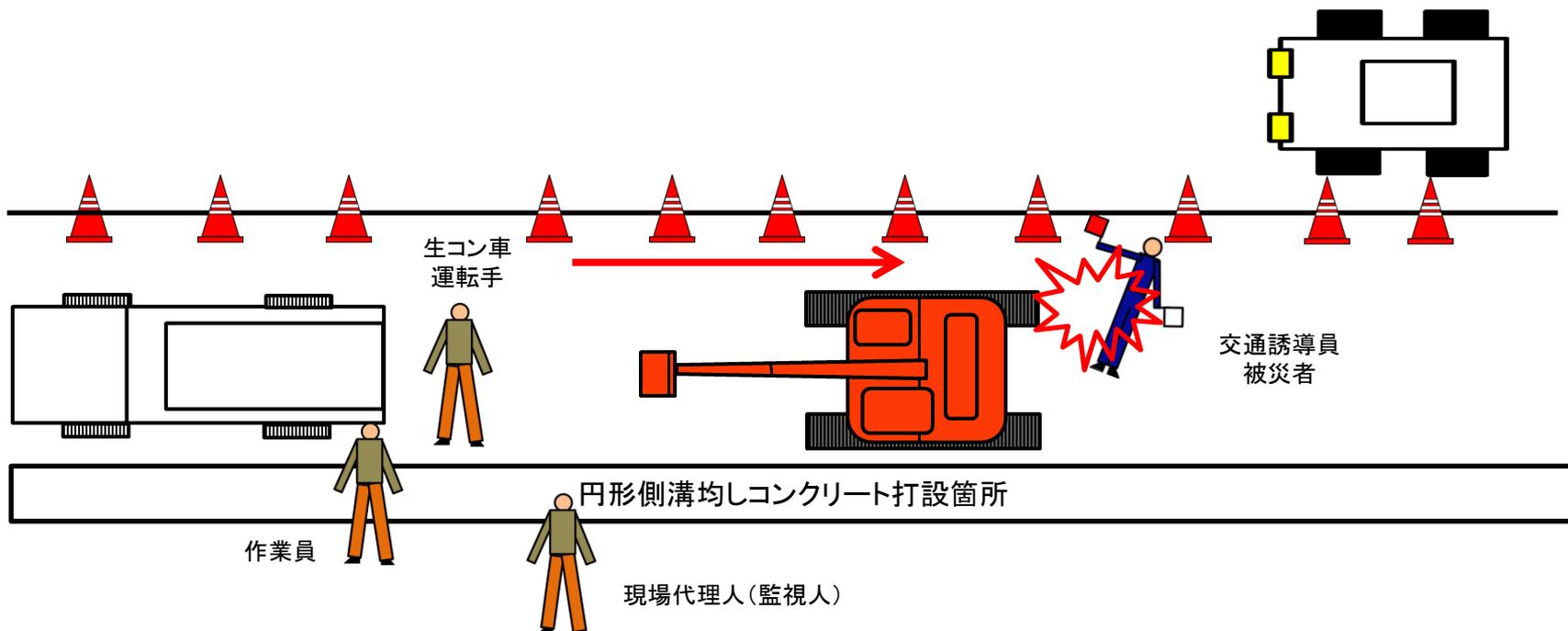
事故原因:

- ・バックホウ運転手が後方確認を怠った
- ・交通誘導員がバックホウの作業範囲内に入った

改善対策:

- ・監視員を配置する
- ・バックモニター、サイドミラーの確認に加え合図（グーパー運動）を併用する

中央分離帯



分類: コンクリート打設、BH移動

被害状況: 2か月の加療(骨盤骨折他)

平成27年度に建設工事で発生した事件事例（挟み込みによる事故）

事故概要：

バックホウのバケットから作業員がコンクリートを掻き出し作業中、バックホウ運転手が作業状況と作業員の位置を確認するため立ち上がった後、着座した際に作業ズボンのポケットにバックホウの操作レバーが引っ掛かり、バケットが誤作動してバケットと床掘面に作業員が挟まれ死亡した

事故原因：

- ・操作レバーの安全装置を使用しないまま、誘導者の合図によらず、目視確認するため自らの判断で立ち上がった
- ・バケットを逆向きにする計画だったが、施工性向上のため現場代理人の了解を得ず、順向きとした

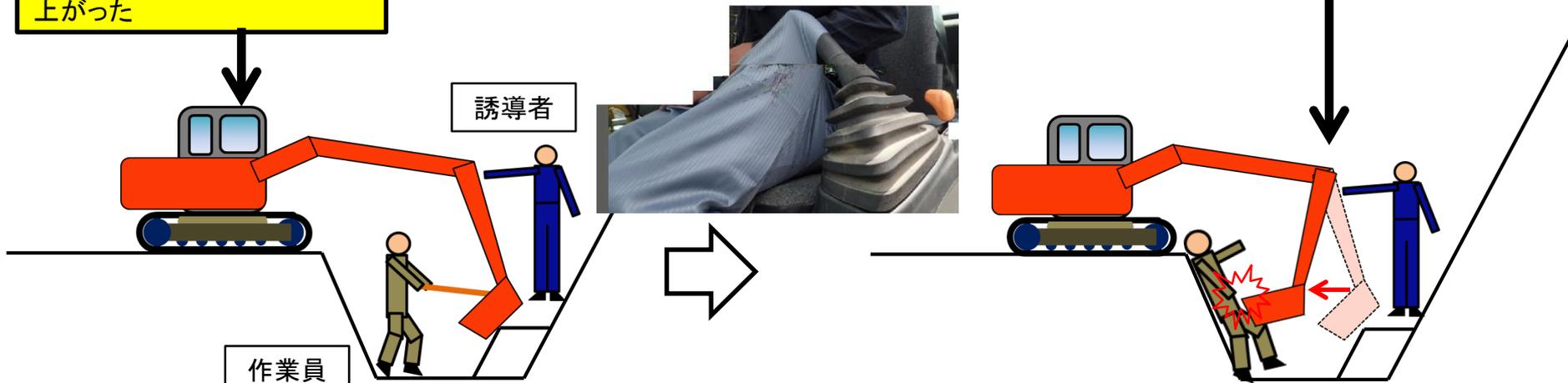
改善対策：

- ・バケット静止時の安全装置使用の徹底と、誘導者の確実な合図の実施ならびに合図に従うことを徹底する
- ・個々の判断で施工方法が変更されることが無いよう施工管理を徹底し、チェック体制を強化する

①運転手が作業状況と作業員の位置を確認するため立ち上がった

②確認後、着座した際にズボンのポケットに操作レバーが引っかかった

③誤作動によりアームが作業員側へ動いて作業員が床掘面とバケットに挟まれた



分類：コンクリート打設、打設

被害状況： 死亡

平成29年度に建設工事で発生した事件事例（建設機械による事故）

【事故概要】

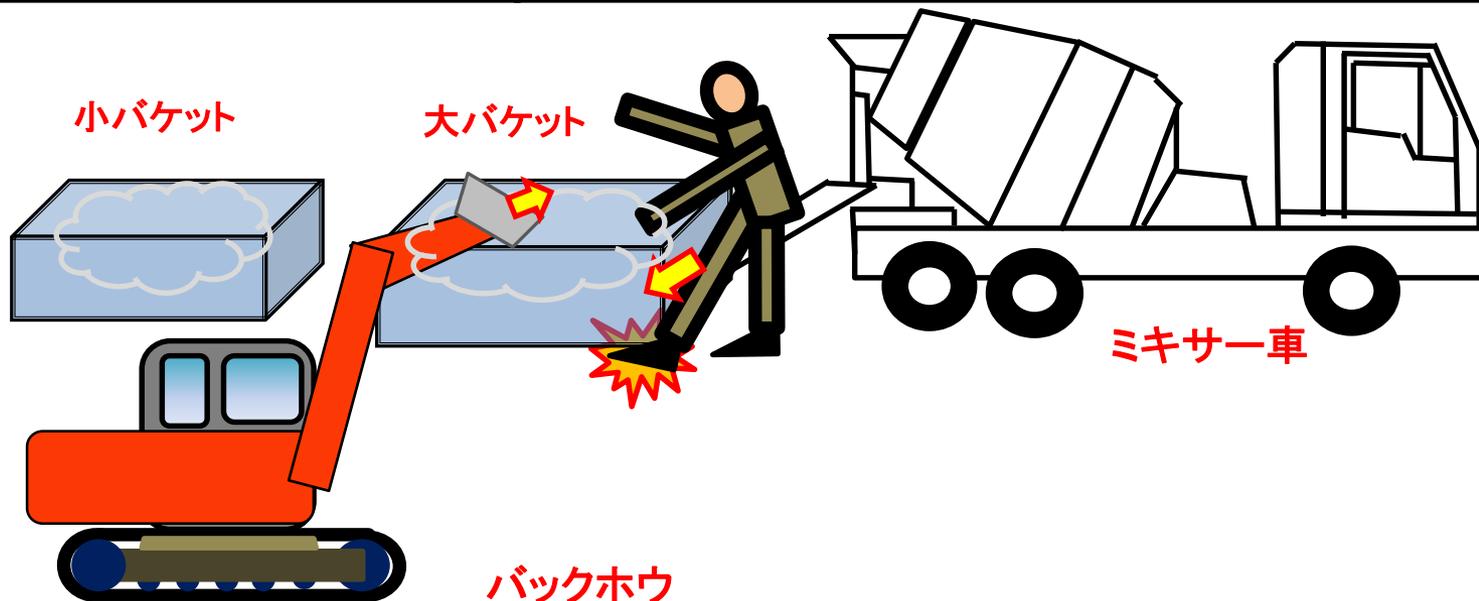
生コンクリートの荷卸しを、バケット1つでは入りきらないため、大・小二つの仮置きバケットで行っていた。大バケットから小バケットへ、バックホウのバケットで移す作業中に、バックホウのバケットの先が大バケットに当たり回転したため、荷卸し調整を行っていた作業員の左足親指に被さるように接触し負傷した。

【事故原因】

・バックホウの動きに連動して、現場内の資材が動くことを想定しておらず、確実に安全な場所に避難していなかった

【改善対策】

- ・誘導者は、重機またはそれに伴い動く可能性のあるものから、安全な場所へ避難してから合図する
- ・オペレーターは作業員が安全な場所に移動したことを確認し、誘導員の合図により、重機を作動させる
- ・作業箇所では、あらゆるものが連動して動いたり、落ちてきたりすることがあるので、危険を想定して作業を行う



分類:コンクリート打設、BH移動

被害状況:左母趾基節骨骨折 左母趾挫創（1ヶ月の加療）